

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択（卒業）
授業科目名：子どもの保健 英語表記：Child Health ナンバリング：2205		単位数：2単位 （半期）講義	担当教員名：片口桂 担当形態：単独
科目／系列	／保育の対象の理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／子どもの保健	
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達および心身の健康状態とその把握方法について理解できる。 3. 子どもの疾病とその予防法、及び多職種間の連携・協働による適切な対応について理解できる。			
【授業の概要】			
子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を学ぶ。子どもの身体的な発育・発達と保健、及び子どもの心身の健康状態とその把握方法について学ぶ。さらに、子どもの疾病とその予防法、及び多職種間の連携・協働による適切な対応について学ぶ。 更に、子どもの健やかな育ちを援助するために、社会情勢や子育ての制度についても理解を深めることができる。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：子どもの心身の健康と保健の意義を理解する 第2回：子どもの出生、子どもの成長・発達を理解する 第3回：子どもの身体的発育と運動機能の発達を理解する 第4回：子どもの生理機能の発達と生活習慣を理解する 第5回：子ども・子育て世代を対象とした制度を学ぶ ①（母子保健法・母子保健活動の概要について理解する） 第6回：子ども・子育て世代を対象とした制度を学ぶ ②（健やか親子21、子育て支援対策について理解する） 第7回：子ども・子育て世代を対象とした制度を学ぶ ③（児童虐待防止の取り組みの概要を理解する） 第8回：子どもの病気①免疫・感染症への対策を学ぶ 第9回：子どもの病気②免疫・感染症への対策を学ぶ 第10回：子どもの病気③新生児期の病気と対応を学ぶ 第11回：子どもの病気④慢性疾患と対応を学ぶ		予習は、あらかじめ教科書を読みわからない言葉は調べておく。復習は、授業ポイントをまとめ、理解できなかった点や疑問に思った点は再学習する。 日ごろから乳幼児に関する保健や病気に関する報道・記事に意識的に目を向けるようにし、把握するよう心掛ける。また、それに対して自分なりに考える習慣を身に付ける。課題は提出期限をまもる。 標準学修時間の目安： 講義内容の予習、復習、宿題を含めて 60～120 分程度の時間が必要である。	

第12回：子どもの病気⑤アレルギー疾患と対応を学ぶ 第13回：子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握を学ぶ 第14回：子どもの病気⑥救急疾患の特徴と対応を学ぶ 第15回：子どもの保健についての学びと保育者の役割を総括し、 理解を深める 定期試験：筆記試験	
【授業の方法】 講義PBL（課題解決型学習）を取り入れ、ディスカッション時間を設定しグループワーク、発表も行う。教科書の「振り返り問題」「リアクション・ペーパー」を活用し授業内でフィードバックする。	
【テキスト】 『子どもの保健テキスト（改訂第3版）』 小林美由紀編著 診断と治療社	
【参考書・参考資料等】 適宜、参考資料を配布、紹介。「アレルギー対応ガイドライン」「感染症対策ガイドライン」	
【学生に対する評価】 定期試験の成績（60%）、提出物（課題）（30%）、授業参画度と授業ごとのリフレクションシート（10%）、ルーブリック評価も活用し総合評価する。	
【履修上の注意】 日ごろから乳幼児に関する報道（特に保健や病気）を意識的に把握するよう心掛け、自分なりに考える習慣を身に付けるとよい。授業中の私語、スマホ操作、写真・動画撮影、通信操作は禁止とする。音楽を聴きながらの受講も禁止とする。	
実務経験の有無：有	実務経験：保育所、児童発達支援事業所
【実務経験を生かした教育内容】 子どもの施設に従事する保育者にとって、子どもの成長・発達について、その実際を伝え、子どもを取り巻く環境や社会情勢の変化の中で「子どもの健康」を守る責務を学べるよう努める。	